

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590800250		
法人名	株式会社JAWA		
事業所名	街かどケアホームりんか		
所在地	山口県岩国市川口町1-8-6		
自己評価作成日	平成25年9月18日	評価結果市町受理日	平成26年3月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・タイムスケジュールにとらわれず、起きたい時に起き、寝たいときに寝、食べたい時間に食事をする等、個人の生活リズムを重んじている。 ・食に関してもこだわりをもっており、全国各地の事業所から名産品が届いたり、旬の美味しい食材を食べて頂ける様にしている。 ・スキルアップ試験があり、職員の資質の向上にも努めている。 ・地域貢献ということからも、月に1度の地域清掃の日を設けたり、献血運動にも協力している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>三食とも事業所で食事づくりをしておられ、同じ食材を使ってユニットごとで調理され、それぞれ工夫した味つけや副菜を一品添えるなどしておられます。食材は北海道のじゃがいもやアスパラガス、トウモロコシなど、全国の特産品や旬のものを取り寄せられたり、地元の新鮮なものを使用され、利用者が季節を感じられるように支援しておられます。利用者は野菜の下ごしらえや味見、食器洗いなど職員と一緒にされ、職員は利用者と同じ食事を味わいながら、いろんな話題で会話を弾ませ、利用者の食事が楽しいものになるように支援しておられます。利用者一人ひとりの趣味や思いに寄り添って、楽しみごとや活躍できる場面づくりをしておられ、利用者が張り合いや喜びのある日々を過ごせるように取り組んでおられます。職員同士のチームワークが良く、利用者との関係が和やかで、職員は笑顔で利用者へ寄り添っておられ、利用者が安心して過ごしておられる様子が伺えました。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員は、生き活きと働けている	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は新人研修の期間に理念について研修を受けており、理念にのっとり仕事に取り組んでいる。	法人の理念を事業所の理念とし、新人研修で理念について学び、日々のケアの中で理念の確認をしている。事業所独自の地域密着型サービスとしての理念の作成にまでは至っていない。	・地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念の作成
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも加入しており、職員・入居者ともに地域の祭り、敬老会にも積極的に参加している。また、町内からの入居者もあり、地域住民の方との関わりもある。	自治会に加入し、地域の祭りや敬老会、土曜夜市などに参加している他、職員は地域の清掃活動に参加している。子供みこしの来訪がある。月1回、施設内にある岩盤浴を地域住民に開放し、5～6人の利用者があるなど交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内回覧を通じて、りんか便りを発行し、認知症の理解をしていただくとともに、つながりが出来ればと考えている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員は外部評価の意義を理解し、自己評価も全員で取り組んでいる。	管理者は、月1回のミーティングで評価の意義について職員に説明し、評価項目を分担して記入してもらい、ユニットごとに評価したものを管理者がまとめている。全職員が評価項目について理解しているとは言えない。前回の評価結果を活かして具体的な改善に取り組むまでには至っていない。	・評価項目の理解 ・評価を活かす取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議では、りんかの実状を説明し、困っていることがあれば、知恵を拝借している。	新たに他地区の自治会長と民生委員をメンバーに加えて2ヶ月に1回開催している。入居状況や行事報告書、ヒヤリハットや事故などの報告をして意見交換をしている。地域とのつながりについて話し合っているが具体的にサービス向上に活かすまでには至っていない。	・会議を活かした取り組みの工夫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括、介護課、社会課等の行き行きがあり、入居者のこと、事業所のことを相談したりして協力していただいている。	市担当課とは電話や出向いて相談し、助言を得ている他、情報交換するなど協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センターとは運営推進会議や出向いて情報交換している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は鍵を閉めることなく、いつでも外出できるようなっている。また、身体拘束についても新人研修で行っている。	身体拘束について新人研修で学び、職員は正しく理解して、身体拘束をしないケアを実践している。玄関の施錠はしていない。スピーチロックについては常に気をつけて対応し、気づいたら管理者が注意している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人研修で講義はしている。また理念をしっかり理解して関わっているのでありえない。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用している入居者の方も居られる。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を交わすときには、十分時間をかけ説明させていただいている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情相談窓口について説明させていただいている。面会時などにも要望があればお聞きして職員に通達している。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。日常の関わりの中で利用者から意見を聞いたり、面会時や電話で家族からの相談や意見、要望を聞いているが、運営に反映させるまでの意見は出ていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会議があり、職員からの意見も聞き皆で考えるようにしている。	職員会議や申し送り時に職員から意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中や職員連絡ノートを活用して、管理者が聞いている。勤務体制の変更など職員の意見を活かしている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員間の意思疎通が出来ているか、働きやすい環境かを考えている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修が終わって、独り立ちした後も先輩職員が見守っている。機会を見て外部研修にも参加してもらっている。	外部研修は情報を伝え、段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。1名の参加がある。新人研修(3名)は法人で2日受講後、事業所内で働きながら学べるように支援している。内部研修は、会議の中で20分程度、ノロウイルスや緊急時対応マニュアルに基づいた勉強会を2回実施している。	・研修の充実
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩国の連絡協議会にも加入している。また近隣の同系列の事業所との交流もあり、職員は刺激を貰っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安要素等取り除けるよう話しやすい環境作り、また、気軽に話しやすいような職員との間柄を作るようにしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの話をしっかり聞くように心がけている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族との話の中で、要望、支援してもらいたいことをお聞きしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活している感覚でいる。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告でご本人の様子をお伝えすることで情報を共有している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が来訪されたり、馴染みの美容院・理容院へお連れしたりして関係が途切れないようにしている。	地域の人や友人、親族の人などの来訪、行きつけの理美容院の利用、電話や携帯電話で友人や家族と連絡を取ったり、年賀状のやりとり、自宅に近い利用者は、日常的に自宅に帰り数時間を過ごせるように支援している他、家族の協力を得て、買い物や墓参り、法事への参加など、馴染みの人や場との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然と利用者同士が集まり、会話されるし、隣の方が困ってられたら助けてくださるような関係が出来ている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も年賀状、暑中見舞い、毎夏恒例のとうもろこしを配ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の話を傾聴し、ニーズに答えられるよう努めている。困難な場合は定例会議にて検討している。	フェイスシートやアセスメントシートを活用している他、日常のケアの中で利用者の言葉や様子を介護記録に記録して、思いや意向の把握をしている。困難な場合は、会議で話し合い本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネ、ご家族、ご本人から生活歴、暮らし方等をお聞きし、その方の生活スタイルそのまま生活して頂ける様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の変化にきずけるようどりよくしている。又、申し送りやケース記録を読み把握している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族からの要望やかかりつけ医の意見を聞き、また、会議にて職員の意見を交わし作成している。	利用者の思いや家族の意見を参考に会議で話し合って介護計画を作成している。6ヶ月ごとにモニタリングを実施して、見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケースに日々の「様子、変化等を記入するようになっている。常に状況の変化があったときには、職員間で話し合い、情報を共有している。又、介護計画を変更している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々出る様々なニーズには出来る限り答えられるように努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事にも参加されるよう支援させていただいているし、参加することで楽しまれている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・家族が希望するかかりつけ医があれば継続して受診できるように支援している。	利用者それぞれのかかりつけ医の他、協力医療機関をかかりつけ医とし、家族の協力を得て受診の支援をしている。専門医には利用者の状態をFAXで情報提供している。受診後は家族と情報を共有し、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師は居らず。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来る限りお見舞いに行き、ご本人を励ましたり、病院から情報をもらったりして常に状態を把握するように努めている。また連携室の相談員とも連絡とり、早期退院に努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	早い段階からご家族の意向を聞き、医師との話し合いを交え方針を共有している。	契約時に、事業所でできる対応について口頭で家族に説明している。実際に重度化した場合は、医師の意見を聞いて家族と話し合い、方針を決めて共有し、移設も含めて支援に努めている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	一人ひとりのリスクを全職員は知っており、その状況に応じて対応している。	事故報告書、ヒヤリハット報告書に記録し、その場にいた職員で対応策を話し合った後、月1回の全体会議で検討し、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応の定期的な訓練は実施していない。	・全職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施。町内の方々の協力もある。	年2回、消防署の協力を得て、火災時を想定した消火、避難訓練を実施している。訓練には事業所の両隣の住民(2名)の参加がある。運営推進会議で災害時の協力について働きかけをしているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの性格を把握し、気持ちを読み取り、その時々状況に応じた声掛けをしている。	人格の尊重とプライバシーの確保について、新人研修で学んでいる。利用者をひとりの人として敬意を払って接し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。日々の業務の中で管理者が指導している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者と会話を交わすことで信頼して頂ける様に努めている。信頼関係が出来るとご本人の思いも話されるようになる。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	タイムスケジュールはなく、個々の生活ペースで暮らしてられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい服を選べるように支援させていただいている。身だしなみについても、整容してからリビングに出てきて頂ける様支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下処理のお手伝いをして頂いたり、味見をして頂いたりしている。もちろん食事は一緒に食べている。	食事は三食ともユニットごとに同じ食材を使って調理している。北海道のじゃがいもやアスパラガス、トウモロコシなどの旬のものを使用したり、地元の新鮮な食材を利用して季節を感じるができるように工夫している。利用者はテーブル拭き、野菜の下ごしらえ、味見、下膳、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。職員は利用者と一緒に食事を味わいながら利用者の食事が楽しいものになるように支援している。年に3回の外出や喫茶(ミニ女子会)、おやつづくり(ホットケーキ、たこ焼き、ぜんざい、おはぎ、かき氷)、季節に応じたイベントなど「食」を通じた色々な取り組みをしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人個人の状態に合わせた食事量、盛り付け等を工夫している。水分も好みに合ったものをこまめに提供している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方は、居室内の洗面所でされている。難しい方は介助させて頂いている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレでの排泄を増やすよう努力している。	排泄チェック表でパターンを把握し、一人ひとりに合わせた言葉かけや誘導でトイレでの排泄の支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事摂取や水分補給、適度な運動を働きかけ、便秘の予防に注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日、時間帯はなく、入りたい時に入っている。	入浴は毎日、いつでも可能で、ひとりずつ湯を入れ替えて、利用者の希望やタイミングに合わせてゆっくり入浴できるように支援している。入浴したくない利用者には言葉かけの工夫や入浴剤を使用して色を楽しめるようにしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンが違うので、各々に合った休息をとられている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方した主治医の指示に従い服薬の支援をしている。副作用、用法、用量について理解している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	イベント、外出などで気分転換をはかって頂いたり、ご本人の力を活かしたお手伝いをさせていただくことで張り合いをもってもらっている。	テレビ視聴（歌番組、水戸黄門、スポーツ、洋画など）、新聞や週刊誌を読む、習字、縫い物、編み物、生け花、トランプ、カルタ、脳リハ（計算、間違い探し）、花の水やり、リビングの掃除、洗濯物たたみ、買い物、ドライブ、戸外での食事など利用者一人ひとりに合わせた楽しみごとや活躍できる場面をつくり、張り合いのある暮らしができるように支援している。利用者の一人は、広島カープのファンで、職員と一緒に野球の試合観戦に出かけたり、居室の前に写真やカープのグッズを飾って楽しむように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	イベント以外の普段の日常でも、気軽に出られるよう支援している。	散歩や買い物、弁当を作って公園や花見に出かけたり、喫茶店でティタイムを過ごしたり、家族や友人とカラオケや外食、買い物、旅行に行くなど、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方はして頂いている。そうでない方は、週ごとにお渡ししたり、必用な買い物がある時に預かり金の中からお出ししている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りをしている方もいらっしゃる。また、電話の取次ぎもやっている。携帯を持ってられる方もいらっしゃる。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは季節によって、壁の装飾を変え、(入居者との合作品)居心地の良い空間ができています。また、テーブルやベランダには季節ごとの花を植えています。	居室に囲まれたリビングは、広々として明るく、テーブルや椅子がたくさん配置してある他、テレビやマッサージチェア、ソファもあり、利用者が思い思いに過ごせる居場所をつくっている。オープンキッチンで調理する様子が見えたり、料理の匂いがして生活感がある。壁面には季節に合わせた飾りをしている。温度、湿度、換気に配慮して利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに出るといつも話し相手がいるし、ソファに横になられくつろがれる事もある。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を置かれたり、居室のTVを見られたり、鉢を居室に置き楽しまれたりされている。	仏壇、冷蔵庫、籐椅子、籐テーブル、衣装掛け、衣装ボックス、整理ダンス、洋服など使い慣れた物や好みのものを持ち込んで、家族の写真や趣味の作品を飾って安心して過ごせるように支援している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	つまずきのないように床材質も考えてある。トイレの表示もあり、ご自分の居室のわからない方には間違えないように名前を張らせて頂いたりして、できる限り自分動いて頂ける様工夫している。		

2. 目標達成計画

事業所名 街かどケアホームりんか

作成日：平成 年 月 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	全員で取り組んでいるつもりであったが、自己評価表についても未完成であった。	全職員に全項目について記入してもらう。	評価項目を理解してもらうため、目のつきやすいところに資料を置く。 勉強会において少しずつでも説明して理解を増やす。	6ヶ月
2	14	内部研修(勉強会)の機会が少ない。	計画的に研修を行い、スキルをあげる。	定例会議を利用し、勉強会を設ける。(感染予防・虐待防止法・緊急時対応等)	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。